

はじめに

慢性腎臓病（CKD）とは徐々に発病したり、症状が激しくなく経過が長引くようなすべての腎臓病を指し、その患者数は現在では、日本で1,330万人（20歳以上の成人の8人に1人）に上るとみられ、新たな国民病ともいわれています。CKDは、生命や生活の質に重大な影響を与える重篤な疾患ですが、腎機能異常が軽度であれば、適切な治療を行うことにより更なる重篤化を防ぐことが可能な疾患です。しかしながら、CKDに対する社会的な認知度は未だ低く、腎機能異常に気づいていない潜在的な患者が多数存在すると推測されております。

また、近年の研究でCKDは、透析や腎臓移植を必要とする末期腎不全の予備軍のみならず、心血管疾患発症の重大な危険因子であることも明らかになってきました。このような点から、CKDの発症・進展の予防対策を強化することが喫緊の課題となってきたため、我が国では、平成21年度より都道府県及び政令指定都市を実施主体とする「慢性腎臓病（CKD）特別対策事業」を開始し、本格的にこの対策に乗り出しております。本会におきましても、平成23年から本事業を福岡市より受託し、医療従事者向け研修会や一般市民向け公開講座を通じて、CKDに関する正しい知識の普及並びにその予防対策に必要な人材育成等に努めてまいりました。

そしてこの度、かかりつけ医と腎臓専門医の各段階の医療機能が効率的に機能するための円滑な医療連携を目的とした、慢性腎臓病（CKD）地域連携パスを作成運用することといたしました。本地域連携パスは、福岡市国保特定健診もしくはかかりつけ医受診をスタートとして、複数の医療機関が連携を取りながら診療していただくことを前提とした治療プログラムです。市内全体で共通様式の地域連携パスを利用することにより、かかりつけ医と腎臓専門医の二次医療機関相互の綿密な連携がなされ、より適切な医療を提供することが可能となります。

今後、本地域連携パスが福岡市ばかりでなく広く普及・活用されることで、質の高い効率的な医療の提供とCKD予防の促進に寄与できれば幸甚に存じます。

最後に、本地域連携パス作成に当たり、ご繁多の折ご尽力頂いた福岡市慢性腎臓病（CKD）連絡協議会のメンバーの方々に対しまして、この場をお借り致しまして心より厚く御礼申し上げます。

平成24年11月

福岡市医師会

会長 江頭 啓介